

白岡市の歴史と文化

ペアーズ・アカデミー 令和3年12月4日

学び支援課 奥野 麦生

歴史と文化って何？

あなたの考える「歴史と文化」について聞かせてください。

「文化財」って何？

あなたの考える「文化財」について聞かせてください。

たとえばどんなもの？

「文化財」と呼べないもの(呼ばないもの)はどんなもの？

白岡市の歴史と文化

～白岡の歴史文化をどうやって守り伝えるか～

「白岡市文化財保存活用地域計画の概要」

ペアーズ・アカデミー 令和3年12月4日

学び支援課 奥野 麦生

1 白岡市の 歴史文化の特徴

たくさんの個別の歴史と文化の特徴が挙げられる。

5つに集約できる

大きなひとつに関連付けられる



白岡市の歴史と文化の特徴

1 二つの鎌倉街道と中世寺社群

- 市内に「鎌倉街道」という伝承を持つ道筋が2つある。一つは、市域東部を縦貫するように残された鎌倉街道中道に比定される道筋で、沿線には、安楽寺、大徳寺、正伝寺、忠恩寺、上野田鷲神社、高岩天満神社など、中世起源の寺社が並ぶ。この道筋を基に近世には、日光御成道が整備され、江戸から11番目の一里塚が置かれた。
- もう一つは、小久喜の鬼窪尾張繁政(南鬼窪氏)館跡や寿楽院前から西進して篠津から来る古道を合わせたのち台地をおり、荒川の自然堤防沿いに南下する道。

篠津・白岡・小久喜・実ヶ谷付近はかつて「鬼窪郷」と呼ばれていた。中世初頭、武蔵七党に数えられる野与党鬼窪氏が利根川筋と荒川筋の最接近点であり鉄生産の拠点であった篠津に目をつけ土着したことによる。鬼窪氏は、白岡支台ほぼ全域を勢力下に治め、血縁のある氏族は周辺に拡大。この地域には、篠津久伊豆神社、興善寺、正福院、白岡八幡宮などの寺社が並ぶほか、いくつもの館跡が築かれていることが発掘調査の成果からわかってきた。

2つの鎌倉街道とその周辺に並ぶ中世由来の神社仏閣は、白岡市の中世以降の歴史文化の特徴をよく示している。

白岡市の歴史と文化の特徴

2 新田開発を巡る用排水路の開削と川の立体交差

- 市域は全体に勾配のゆるい土地柄である。水田地帯では、4,000分の1といわれる緩傾斜で、河川後背湿地や沼地が多く排水の難しい土地。
- 先人たちは、排水路を掘り、後背湿地を水田として開発してきた。用排水路の開削で何より苦心したことは、水路同士を交差させる必要が生じたこと。「伏越」や「背越」などの構造は、開削はもちろんその後の管理にも大きな労力が必要であった。田が水につからないように堤を築いたり水口の開閉をしたり日常の管理が重要で、ひとたび出水すると、堤の上郷と下郷との間で堤を切るか切らないかの騒動が持ち上がる。しばしば争論となり、お上の裁定を仰ぐことになった。こうした争論に関する絵図や裁許状は当時の水利を知る上で貴重な資料。

江戸時代の新田開発の歴史は、用排水路の開削と川の立体交差と排水を巡る争論の歴史であるということができ、地域の地勢を大きく反映した白岡市の歴史文化の特徴のひとつ。

白岡市の歴史と文化の特徴

3 排水の苦勞を乗り越えてきた低地の暮らし

- 市域は、排水に苦勞してきたが、人々は、水のもたらず恵みを大切に
して、災いと折り合いをつけながら暮らしてきた。その暮らしぶりを
象徴的に残すのが市域西部の大山地区である。柴山沼や皿沼のある大
山地区は、南の元荒川と北の星川に挟まれた土地柄もあり、絶えず排
水に苦勞してきた地域である。
- 柴山沼を囲む柴山、荒井新田の家々では「水塚」が築かれ、水害に備
える風土が形成されてきた。この地域の水塚は、元荒川や星川側より
柴山沼側に発達し、沼側の塚の方が高い傾向が見られることから、河
川氾濫以上に柴山沼の内水氾濫に備えたものと思われる。
- 柴山沼や皿沼周辺には「掘上田」が発達し、掘り潰れの水路は集落内
まで引かれ、田畑との往復や作物の運搬などに使われていた。水害時
にはこの舟が物資の輸送や避難に使われた。

沼周辺の入会権に関する争論裁許絵図などが残されていることから、古
くから、周辺各村が利用することのできる範囲などが決められていたこと
がうかがえる。

特産の梨栽培が盛んな理由も、地下水位が高くみずみずしい梨がとれる
ことによる。

大山地区に限らず、市域では、水のもたらず災いや不便さを乗り越え水を味
方につけ、魅力を引き出して水とともに暮らしてきた。このことは、白岡の歴史文
化を紐解くうえで極めて大きな特徴である。

白岡市の歴史と文化の特徴

4 新井白石の残した歴史文化

- 6代将軍徳川家宣の儒臣新井白石は、相州高座郡に500石、野牛村で500石合計1,000石を領有。
- 白石は、野牛村に後背湿地の排水路「白石様堀」を開削させ、見事な美田に変えたほか、救荒対策として「郷倉」を設けた。
- 村の鎮守の久伊豆神社の扁額は白石が正徳の朝鮮通信使の製述官イ・ヒョンに頼んで揮毫してもらったものが下書き。白石が村方の争いごとに裁定を下した文書が残されている。
- 野牛村の名主家には、白石自筆の漢詩のほか新井成美（白石5世の孫）の漢詩などを表装した掛け軸が伝えられており、白石やその後の新井家が領地の野牛村を大切にし、村方と交流していたことがわかる。

野牛地区には、このほかにも新井白石ゆかりの文化財が残されている。村人も白石を慕い、毎年白石の命日である5月19日は「筑後様まつり」として継承されてきた。昭和10年代に途絶えるが、近年、祭りが復活したことは、地域の歴史文化の興隆に大きく寄与するものとして評価に値する。

新井白石の事績や白石に関わる文化財は、野牛にとどまらず広く白岡市全体の歴史文化に大きな影響を与えている。

白岡市の歴史と文化の特徴

5 篠津天王様の祭礼に見る近世町場の面影

- 篠津は、野与党鬼窪氏の本拠地として開発され、近世を迎えると日光街道粕壁宿と中山道鴻巣宿とを結ぶ脇往還の町場として栄える。
- また、元荒川の水運を利用して、近郊の木綿などの流通拠点となったことが知られている。
- 木綿や紅花問屋として隆盛を誇った「篠川」は、地域経済だけでなく文化面でも大きな足跡を残している。篠津久伊豆神社の社殿彫刻や優れた彫刻を持つ5台の山車は、町場としての篠津の潜在力の高さを示すものという。1村で5台の山車を持つ篠津天王様の祭礼は、単なる村祭りとしての域を脱したものと評価できるが、その背景には「篠川」の財力があったことは疑う余地もない。

篠津の歴史文化は、河川から得た砂鉄を原材料とした鉄生産に始まり、鉄と河川交通に着目した鬼窪氏の土着で大きく前進し、近世の物流や経済の発達に裏打ちされた商家「篠川」の出現で頂点に達し、「軍鶏」の彫刻で一世を風靡した立川金禄へとつながって行く。

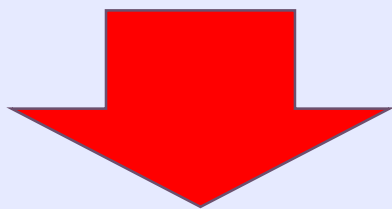
地域全体の歴史文化を育む揺籃としての役割を果たした町場「篠津」の繁栄は、篠津の天王様の祭礼にその面影を残している。

2 この歴史文化をどのようにして後世に伝えるべきか

『白岡市文化財保存活用地域計画』作成

「地域計画」を作成することの意味

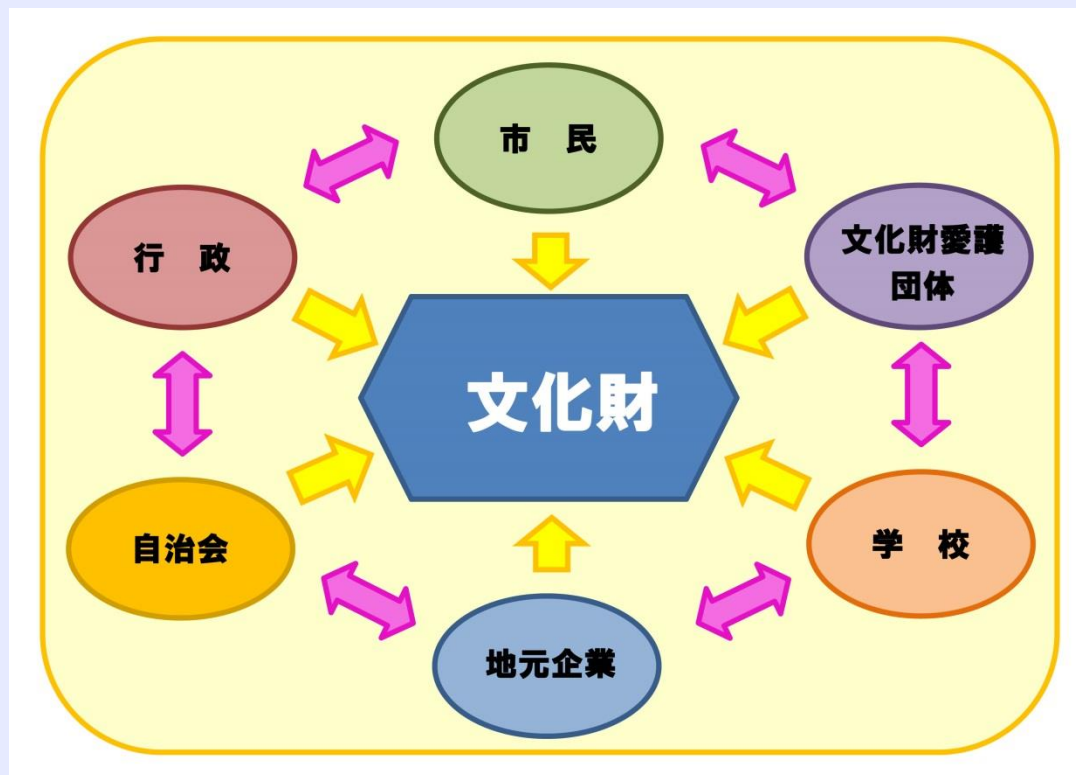
H30.6 「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」成立



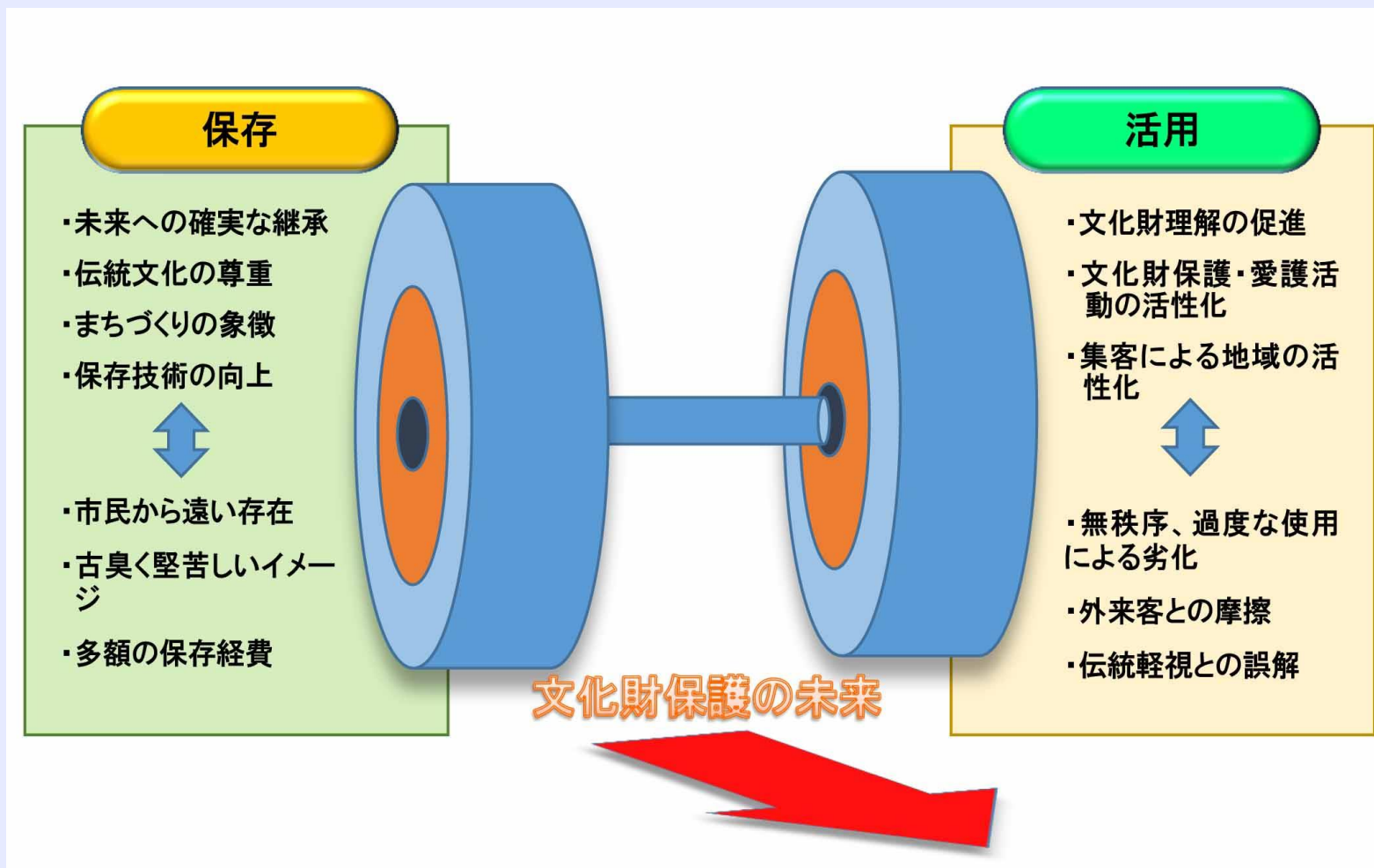
未指定文化財を含めた文化財をまちづくりに活かしつつ、
地域社会総がかりでその継承に取り組んでいくことの重要性

●市民、行政、自治会などの地域団体、地元企業、学校などが一丸となって白岡の歴史文化を守り継承する⇒地域を誇りに思う気持ちが育まれ、その気持ちがさらに地域の歴史文化に磨きをかけていく良い連鎖的效果を生む

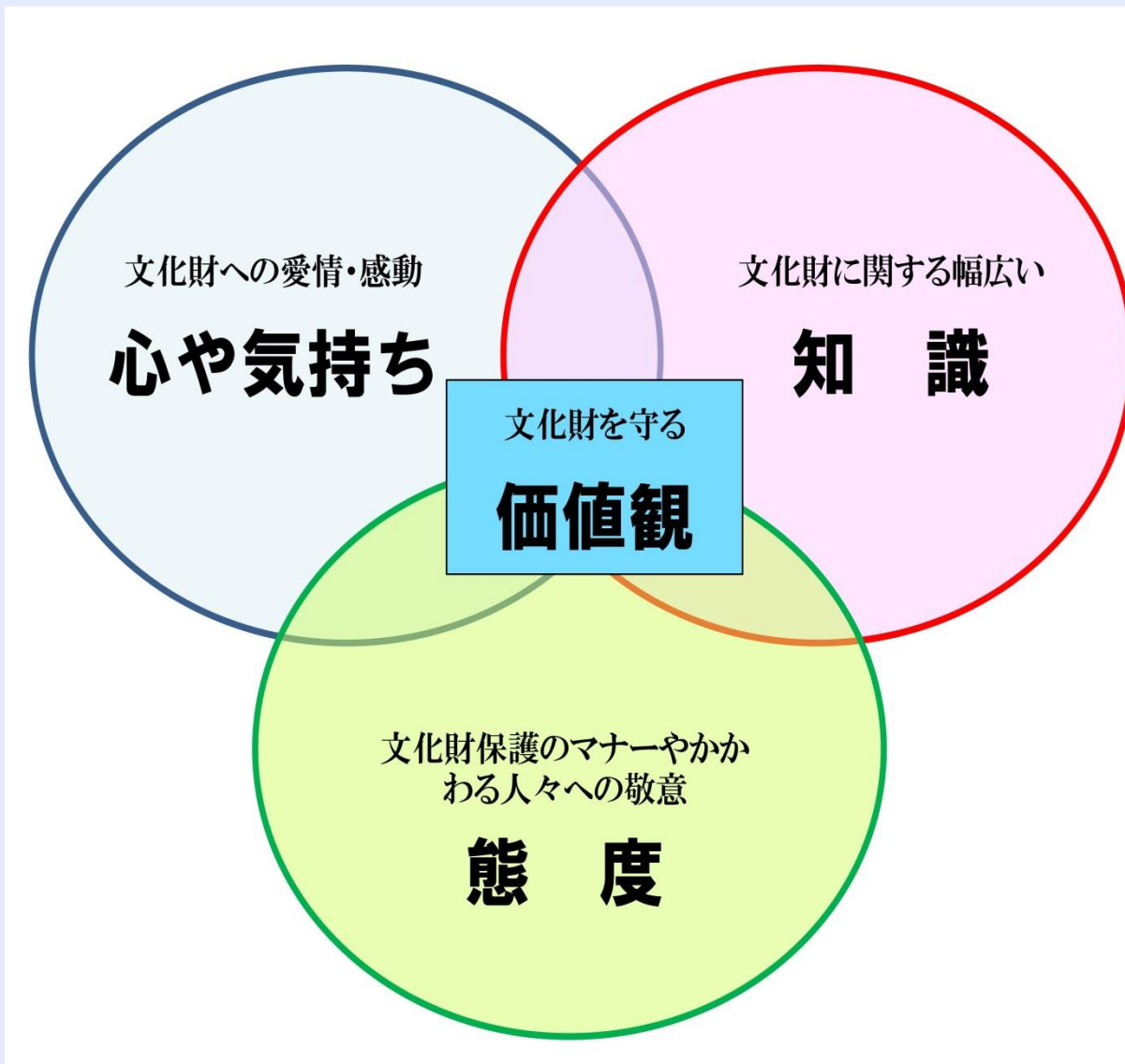
●ボランティア育成と活躍の場の提供⇒人材やキャリアの活用策として、地域と学校や地域と地域などとをつなぐ架け橋として、さらには経済活動など様々な波及効果が期待される



守るためには知ってもらわなければならないことが大切



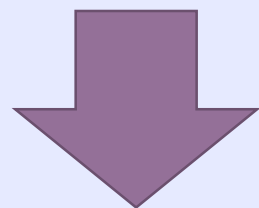
文化財教育の3要素



3 『白岡市文化財保存 活用地域計画』の概要

文化財の保存と活用に関
する具体的方針と事業

4つの課題⇒4つの基本方針



60の取組

(計画期間内に頭出し)

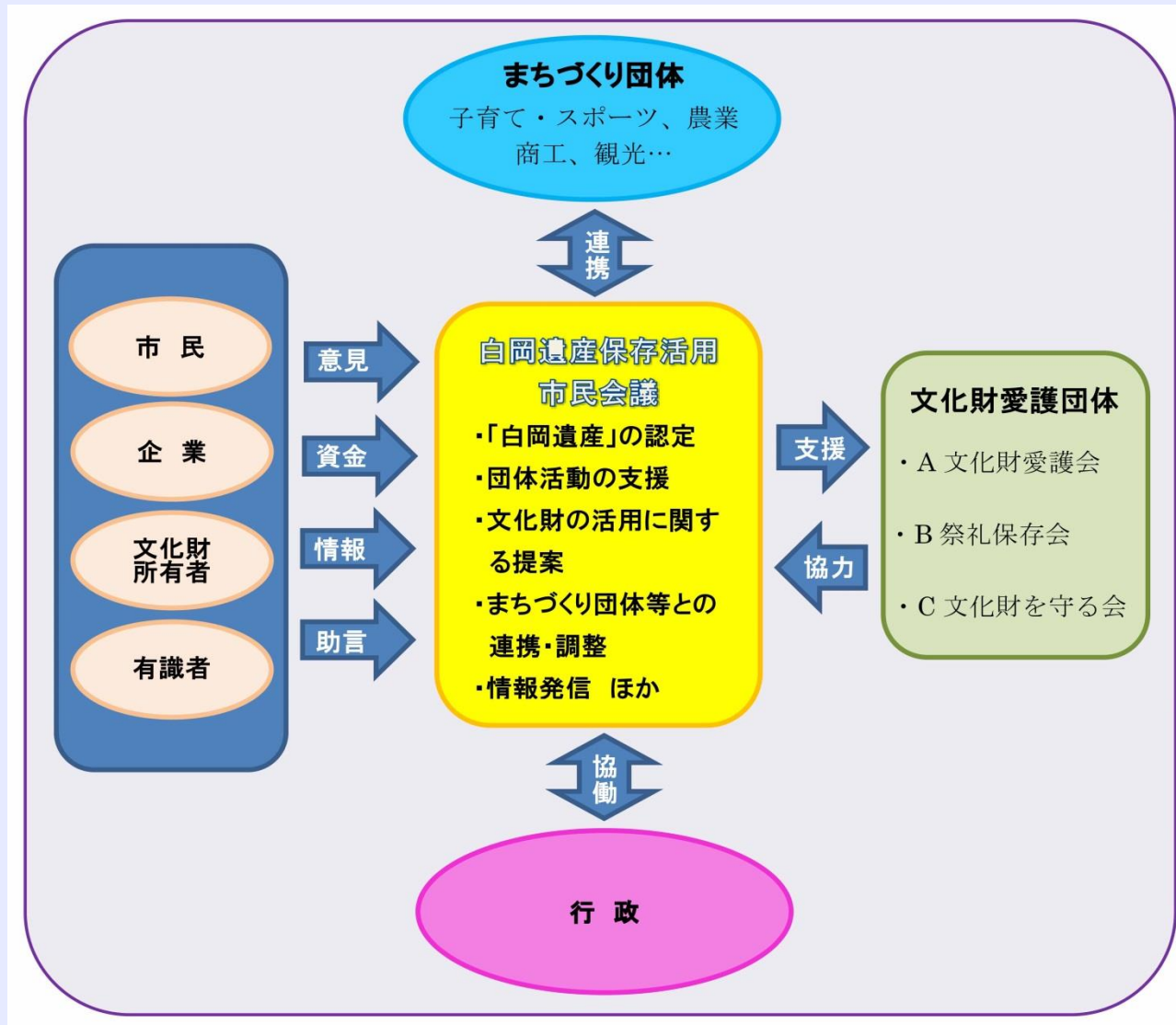
保存・活用に関する4つの課題

- (1) 各分野の文化財把握に関する課題
- (2) 保存・継承に関する課題
- (3) 情報発信・普及活動に関する課題
- (4) 市民との連携・協働に関する課題



4 地域の文化財を地域の手で守る仕組み作り

(1)文化財の保存と活用を推進する仕組み



4 地域の文化財を地域 の手で守る仕組み作り

(2) 市民参加の文化財保護施策
のあり方

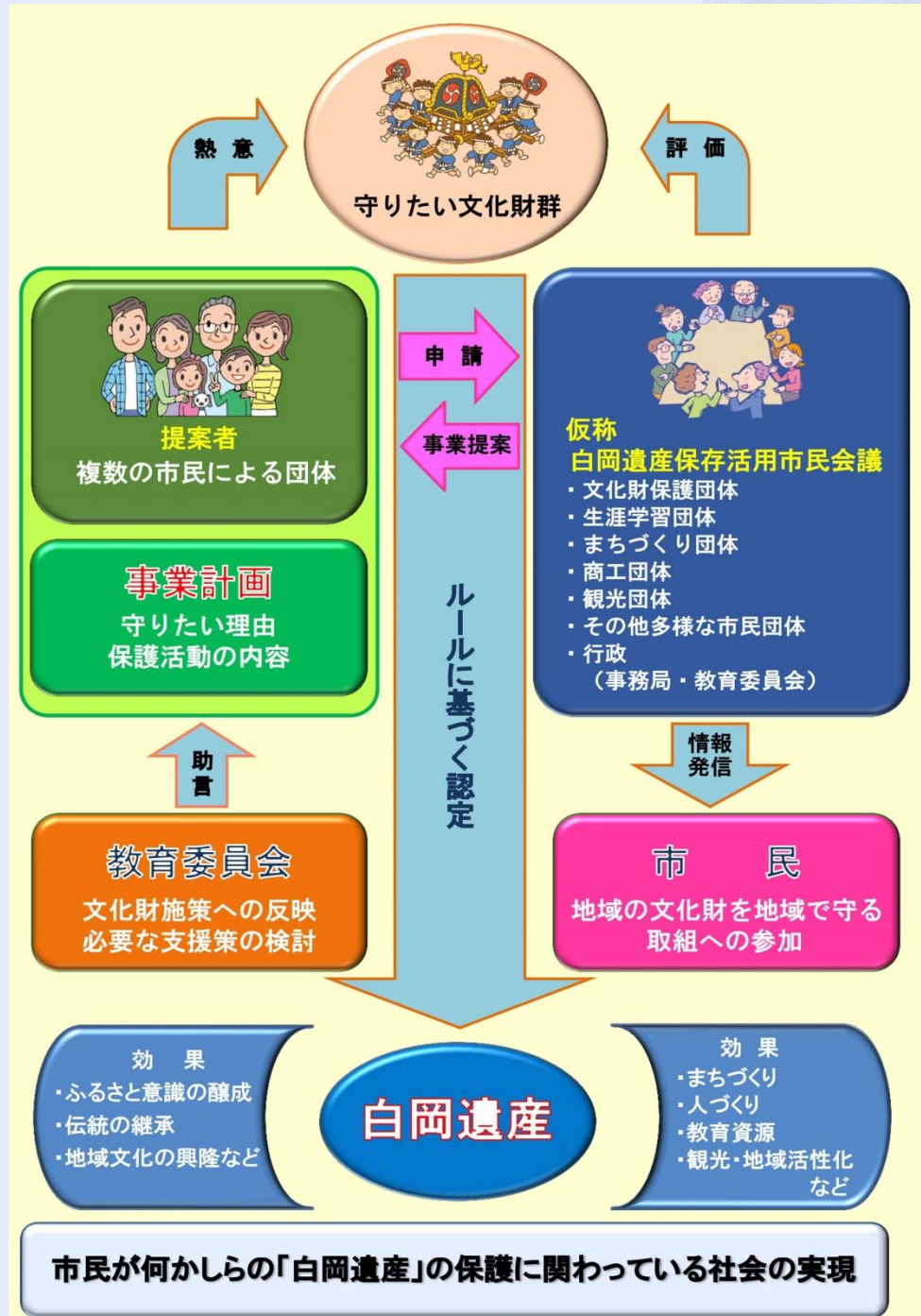
従来型⇒「指定文化財保護
制度」

新たな制度⇒「市民提案型
の文化財保存活用制度」



「白岡遺産」制度

2本柱の樹立



5 関連文化財群の概要

(1) 関連文化財群の位置づけ

歴史文化の特徴
I 二つの鎌倉街道と中世寺社群
II 新田開発を巡る用排水路の開削と川の立体交差
III 排水の苦勞を乗り越えてきた低地の暮らし
IV 新井白石の残した歴史文化
V 篠津天王様の祭礼に見る近世町場の面影

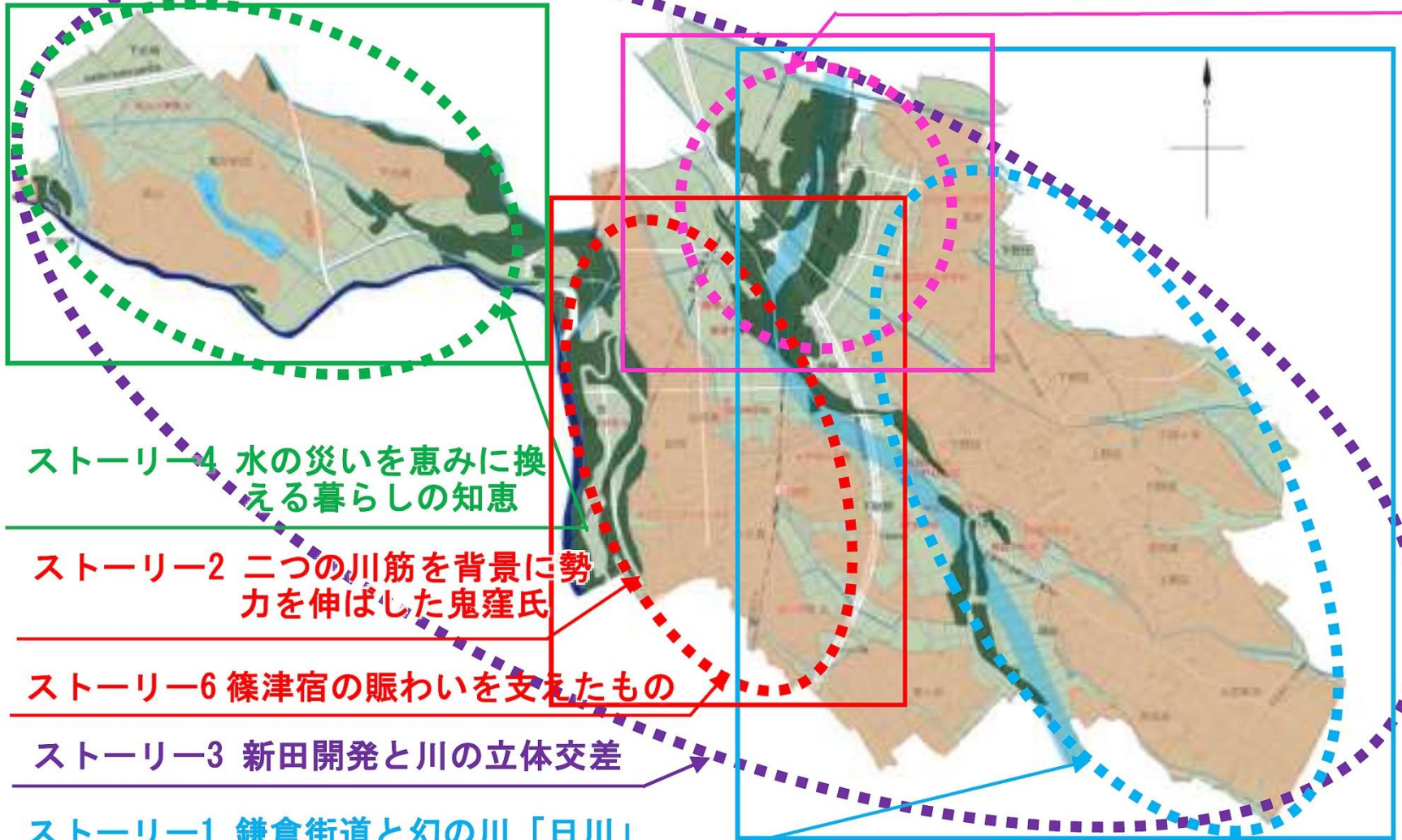


文化財の特徴					地域性
河川用排水	武士団	道	新田開発	人々の暮らし	
○	○	○	○	○	東部
○	○	○			中央部
○		○	○	○	全域
○			○	○	西部
○			○	○	野牛地区
○		○		○	中央部



ストーリーの名称
1 鎌倉街道と幻の川「日川」
2 二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏
3 新田開発と川の立体交差
4 水の災いを恵みに換える暮らしの知恵
5 領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人
6 篠津宿の賑わいを支えたもの

ストーリー5 領地・領民を想う新井白石
と領主を慕う村人



ストーリー4 水の災いを恵みに換
える暮らしの知恵

ストーリー2 二つの川筋を背景に勢
力を伸ばした鬼窪氏

ストーリー6 篠津宿の賑わいを支えたもの

ストーリー3 新田開発と川の立体交差

ストーリー1 鎌倉街道と幻の川「日川」

5 関連文化財群の概要 (2) ストーリーの構成と概要

ストーリー1

鎌倉街道と幻の川「日川」

文化財群の例

- ・鎌倉街道中道
→日光御成道・一里塚
- ・中世寺社群
- ・大徳寺の伝説
- ・日川の果たした役割
- ・日川〇〇(新田・筋・米)
- ・近世村古文書群
- ・地名・村々の成立・関係
- ・維持されてきた環境
(ひこべえの森)
-

大徳寺大日堂鋪地能絵図(濱田家文書)

折原家金銅仏

高岩天満宮神社

忠恩寺

上野田鷲神社

下野田鷲神社

岡泉鷲神社

正伝寺

大徳寺

清左衛門遺跡

安楽寺

日川推定流路

鎌倉街道中道推定経路

一里塚

大徳寺縁起(部分)

木造薬師如来坐像(安楽寺)

日川新田検地帳

日川新田半蔵受地周辺絵図(澁谷家文書)

太田資正棟別免許状(忠恩寺文書)

現在の日川新田半蔵受地周辺

4 関連文化財群の概要

(2) ストーリーの構成と概要

ストーリー2

二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏

文化財群の例

- ・中世寺社・館跡群
- ・久伊豆神社3社
- ・鬼窪氏の足跡
- ・「荒川」と「日川」
- ・鉄生産
-



4 関連文化財群の概要

(2) ストーリーの構成と概要

ストーリー3

新田開発と川の立体交差文化財群の例

- ・自然河川と用排水路
- ・用排水路の立体交差の背景
- ・新田開発の歴史
- ・新田開発・水争い関係の絵図
- ・後背湿地
- ・川や水路と集落の結界
- ・漁撈(川・沼・田)
- ・.....



4 関連文化財群の概要

(2) ストーリーの構成と概要

ストーリー4

水の災いを恵みに換える

暮らしの智慧

文化財群の例

- ・柴山沼(大沼)と皿沼
- ・荒川と星川と野通川
- ・水塚群
- ・見沼代用水と柴山伏越
- ・井澤弥惣兵衛
- ・山崎禮助
- ・漁撈
- ・掘上田(ホツツケ)
- ・川魚料理

.....

入会沼絵図

柴山沼周辺航空写真

被災水位のわかる土蔵(荒井新田)

柴山沼の投網漁の様子

見沼代用水

下大崎

星川

野通川

隼人(栢間)堀川

住吉神社

橋戸集落

柴山

柴山沼

元荒川

常福寺

諏訪八幡神社

柴山伏越

住吉神社奉納絵馬

井澤弥惣兵衛分骨墓(常福寺)

諏訪八幡神社奉納絵馬

堤土置争論裁許状(田口家文書)

現在の柴山伏越

元荒川常福寺橋周辺

柴山地内の水塚

揚げ舟(柴山地内)

4 関連文化財群の概要

(2) ストーリーの構成と概要

ストーリー5

領地・領民を想う新井白石と
領主を慕う村人

文化財群の例

- ・白石関連遺産(白石様堀・漢詩
- ・肖像画・折りたく柴・郷倉跡・
- ・朝鮮通信使扁額)
- ・日川流路跡と自然堤防
- ・筑後様まつり
- ・古代蓮
- ・白石米
-

白石様堀

白石自筆漢詩

北条氏繁判物(大久保家文書)

日川推定流路

野牛久伊豆神社

観福寺

野牛久伊豆神社扁額

野牛久伊豆神社扁額下書き

郷倉跡記念碑

折たく柴(の記)

蓮河原の古代ハス

紙本着色新井白石画像

復活した筑後様まつりの様子

野牛久伊豆神社

4 関連文化財群の概要

(2) ストーリーの構成と概要

ストーリー6

篠津宿の賑わいを支えたもの

文化財群の例

- ・篠津天王様(祭礼・山車)
- ・篠津久伊豆神社社殿彫刻
- ・興善寺の豆まき
- ・篠津浅間様の初午
- ・白岡八幡宮の馬寄せ
- ・小久喜久伊豆神社のささら獅子舞
- ・立川金禄
-

大野家文書

篠津天王様の山車・横宿耕地

庚申塔

菱沼溪齋翁墓碣

篠津久伊豆神社の社殿彫刻

のよみち

須賀神社

篠津久伊豆神社

現在の元荒川流路

日川推定流路

興善寺

正福院

白岡八幡宮

小久喜久伊豆神社

篠津天王様の神輿

興善寺の豆まき

篠津天王様

新田の天王様(白岡・新田地区)

小久喜のささら獅子舞

空作観音菩薩立像

ご視聴ありがとうございました。

学び支援課では、今後も様々な講座を
企画しています。

ぜひ、ご参加ください。

撮影・編集：白岡市教育委員会